

単元案の概要

単元名:韓中独連携プロジェクト_平昌オリンピックで目標言語圏の選手を応援しよう!					
科目名	ドイツ語	作成日	2017年9月1日	作成者	池谷尚美
学年/年次	大学1・2年生	クラス人数	4名	使用教材	Schritte international A1/2~A2/1(参考)
話題分野	スポーツ	言語レベル	レベル1~2	必要時間数	授業内6時間+授業外の活動
単元目標					
2018年2月に開催される平昌冬季オリンピック・パラリンピックを題材に、ドイツ語圏でのオリンピックの歴史、オリンピックで人気があるスポーツ種目や選手、オリンピックが抱える諸問題、現地の人たちのオリンピックに対する意識を知り、視野を広げることを目標とする。学習者はドイツ語圏の選手について調査、スライドを協働して作成し、目標言語での応援の言葉や、目標言語圏でのオリンピックに対する意識も含めて他言語学習クラスに伝える。					
コミュニケーション能力指標					
[話題分野「地域社会と世界」を参考に、オリジナル指標を作成]					
<ul style="list-style-type: none"> ・目標言語圏の国名や主な都市名を言ったり書いたりできる。 ・目標言語圏のオリンピック代表選手の名前や経歴を言ったり書いたりできる。 ・目標言語圏でのオリンピックについての考えを簡単な言葉で伝えることができる。 ・目標言語圏での応援の言葉を紹介することができる。 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
ドイツ語圏で人気があるスポーツ種目について調査し、その分野で人気があるアスリートを留学生に紹介してもらった。その後、紹介するアスリートが出場する種目の専門用語(スキーの用語など)を調査した。オリンピックの歴史や問題点については、新聞記事やインターネットのサイト等を利用し、日本語文献で裏付けを取りつつ、内容をまとめた。			<p><場面状況> オリンピックは世界的なスポーツイベントであるにもかかわらず、日本では日本人選手の活躍が目される傾向にあり、他国の選手のことについて情報を得る機会があまりない。ドイツ語クラスでは、2018年2月に開催される平昌冬季オリンピックを契機に、ドイツ語圏の注目選手、ドイツ語での応援の言葉、ドイツ語圏の人々がオリンピックに対して抱えている問題点や意見を調査し、オリンピックを今までと違う視点を持って観戦しよう、と考えた。</p> <p><活動の流れ> ①プロジェクトのねらいと発表対象者(ドイツ語圏からの留学生と、他大学の他言語学習者の学生)を説明し、プロジェクト参加への同意を得る。オリンピックに対して学習者がどんな立場を取っているか(オリンピックについての知識、賛成・反対等)を話し合った。 ②冬季オリンピックの種目を表すドイツ語を学ぶ。到達目標や評価基準の説明。 ③クラスに留学生を招き、ドイツの有名アスリートや応援の言葉、ドイツの人々が持つオリンピックへの考えを紹介してもらい、その後質疑応答。 ④留学生のプレゼンを基に、調査内容や担当を決定。 ⑤スライド作成。 ⑥再度留学生にクラスに来てもらい、成果発表。その後他言語学習者へスライドを公開し、コメントをもらう。他大学のスライドも視聴し、感想を書き、アンケート記入。</p>		
評価活動					
形成的評価			総括的評価		
			成果物(スライド)について学生が自己評価を行った(成績には含めない)。言語領域(構成・表現/言語を使って他の人と繋がる)、文化領域(目標言語圏の競技や選手に対する調査・発見・分析/オリンピックが抱える様々な課題に関する意見や分析)、グローバル社会領域(チームワーク・協働/ICT活用)での評価を行い、自由記述で、プロジェクトを通じての気づきを記入。		

3×3+3 分析表（ドイツ語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<p>冬季オリンピックの競技種目を表す単語が分かる。</p> <p>選手の経歴や試合出場結果が分かる。</p> <p>選手やチームを応援する言葉が分かる。</p>	<p>オリンピックに関して、目標言語圏で問題になっていることが分かる。</p> <p>目標言語圏でのオリンピックの歴史的経緯を理解できる。</p>	<p>オリンピックに関して、世界各国で様々な問題が複合的に存在していることが分かる。</p>
できる	<p>選手のパーソナルデータをスライドにまとめることができる。</p> <p>選手の競技結果をスライドにまとめることができる。</p> <p>選手やチームを応援する言葉を言うことができる。</p>	<p>オリンピックに関して、賛成・反対の意見をまとめることができる。</p> <p>オリンピックについて、目標言語圏で主に問題になっていることの裏付けをネットや文献（新聞記事や書籍等）で取ることができる。</p>	<p>オリンピックについて日本人の意識と、目標言語圏での考えを対比させ、自分の意見を持つことができる（高度思考）</p> <p>SNS やインターネットを使い、情報収集をすることができる。（ICT 活用）</p> <p>分担・協力してスライドを完成させることができる（協働）</p>
つながる	<p>留学生に、自国で人気があるスポーツについて尋ね、日本の状況と比べることができる。</p> <p>留学生に、自国で人気があるアスリートについて尋ねることができる。</p>	<p>目標言語圏の人たちがオリンピックについてどんな考えを持っているかを、根拠を持って他の言語学習者に伝えることができる。</p>	<p>スライドの成果物を留学生や、他言語学習者に対して発信することができる。</p>
三連携	<p>【学習者】クラス内での話し合いや協働</p> <p>【教室外】留学生との交流、他言語学習者とのグループウェアでの交流</p> <p>【他教科】地域社会、オリンピックの歴史的背景、スポーツの役割、環境問題等</p>		